

## ショートコメント vol.157 (2019年11月22日)

テーマ：中国からの訪日客の動きに異変

～停滞傾向がしばらく続く可能性も～

### ●19年10月の訪日客の動き

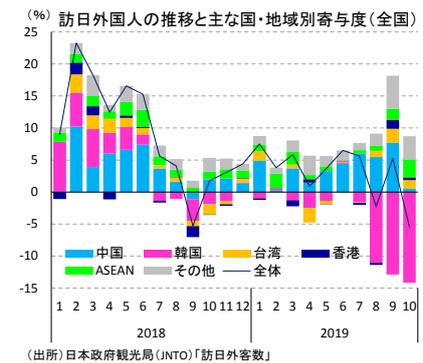
10月の訪日外国人の来訪状況（全国）が発表され、2か月ぶりに前年を下回ったことが判明した。

日韓問題による韓国人客の減少が大きな要因であるが、図表1をみると、中国人客の伸びが大きく縮小し、韓国人客の落ち込みをカバーしきれなかったことも響いた。

日韓問題による観光面への影響は8月から始まったが、9月までは中国人客の増加がそれを補ってきた。また、9月はラグビーワールドカップが開催され、出場国からの訪日が増えたこともプラスとなった。

10月は中国による下支えが一気になくなったことで、全体としての減少幅が拡大する形となっている。

【図表1】



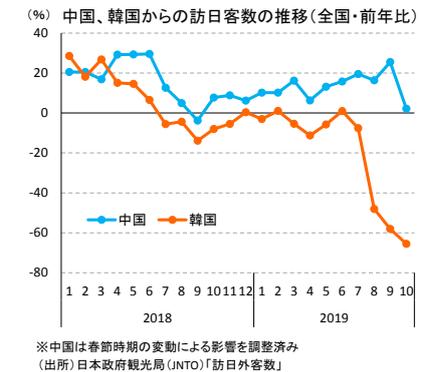
### ●中国と韓国の訪日客の動き

図表2は中国と韓国の訪日客の推移をみたものであるが、韓国もさることながら、中国の鈍化も目立つ。

10月の中国人客の腰折れについては、大規模な自然災害による影響もあるが、東南アジアや台湾は好調に推移していることから、中国の個別要因の存在が指摘できよう。

もともと中国経済は米中貿易摩擦の影響で、成長の鈍化が進んでいた。その中でも、訪日客の動きはこれまで好調であったが、いよいよ鈍化が始まった可能性がある。これは11月以降の動きも含めた判断となるが、今の中国経済の状況を勘案すると、決して楽観はできない。

【図表2】



### ●訪日客による消費の推移

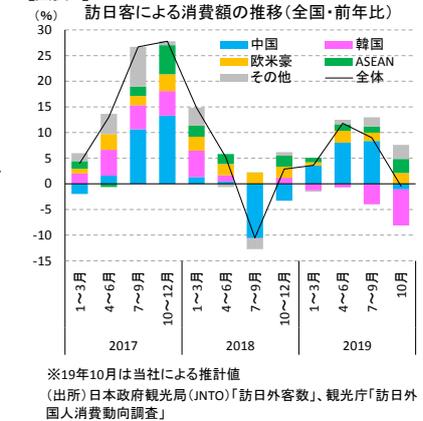
中国人客の変調については、訪日客数全体への影響もさることながら、消費面への影響はさらに大きくなる。

図表3は、公表されている四半期ごとの消費額の推移に、直近10月の推計値を加えたものであるが、中国は訪日客の動きをみると、やはり19年7-9月から10月にかけての変化が目立つ。19年は増加の大半を中国が担ってきたが、10月には一気にその動きがなくなった。

今後の注目点は、この動きが果たして短期的なものかどうかであろう。仮に10月の動きが中国経済の悪化を反映したものであれば、今後でも続く可能性が高いといわざるを得ない。

今の時点では判断が難しいものの、11月には好調な動きに戻るとも考えにくく、基本的には鈍化傾向が進む可能性が高そうである。その場合、インバウンド消費全体も鈍化が続くことを意味するため、警戒が必要とみられる。

【図表3】



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之  
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。